



## 【義のために迫害されている者が幸いです。(8)】

聖書：マタイの福音書 5:10-12 / 暗唱：マタイの福音書 5:12

説教者：鄭南哲牧師

## &lt; 8 番目 イエス様からの最後の祝福の教え &gt;

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間の間も主の平安で守られましたか。特に蒸し暑い日々の中で今月も体と心が守られ、心はキリストの平安で満たされる日々となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！

今日はいよいよ八つの祝福の教えが終わろうとしています。最後である‘義のために迫害されている者’への祝福の教えをみなさんとともに教えていただきたいと思えます。しかし、今日の祝福はイエス様のいままでの教えは人間の常識と体験とは反(そ)れる形で祝福を語られましたが、今日義のために迫害されている者は幸いだというメッセージは特に納得いかないような祝福ではないかという事です。この迫害の祝福こそ人々の期待には反れる祝福ではないかと思えます。実際、今日の祝福はイエス様の言われた新しい祝福ではなくいままで取り上げられてきた七つの祝福のまとめだと言えます。そして幸いな者たちの一番の核心を確実に表わしています。なぜなら心の貧しい者に約束された初めの祝福と八目の最後の祝福つまり“天の御国はその人のものだから”という約束が同じだからです。ですから八つの祝福シリーズの最後である今日の時間を通してさらにイエス様の教えを心に刻むようにお願いします。

## &lt; 1. 迫害とは何か。 &gt;

イエス様は義のために迫害されている者は幸いだと言われましたが‘迫害’とは何でしょうか。

ここで主が言われる迫害とは自分の良くない性格や自分の愚かな行動の結果のためほかの人に受ける苦しみを言うものではありません。つまり迫害は自分が間違っただけで受ける代価としての痛みと苦しみを意味しているわけではありません。我々とはときどき自分の間違いや犯した過ちや罪のため私たちが苦しみを受けている事迫害を受けているのだと誤解する場合があります。使徒ペテロは聖書の中で私たちにこうして忠告しています。“あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、悪を行なう者、みだりに他人に干渉(かんしょう)する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません。”(第一ペテロの手紙 4 : 15) つまり、わたしたちが間違っただけで受けている苦難は義のための苦難ではないと教えて下さっています。

今日の本文からの迫害とは神様の御言葉に従って生きようとする中で、キリストの御言葉を伝えようとする中で受ける苦しみ、つまり義のために受ける苦しみを言います。ここで‘義’のために受ける苦しみとはまさにイエスキリストのためにうける苦しみを意味します。

今日の本文の中でこの“義”は単純に 抽象的な正義とか社会正義で考ええてはいけません。

もっと正確に説明しますと、“義のために”は“キリストのために”に言い換えても間違いありません。なぜなら本文 5 章 10 節に“義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。”だと書かれています。11 節に“わたし(イエスキリスト)のために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。”

## &lt; 2. イエスキリストを敬虔に信じていた者たちはみんな苦しみと迫害を受けたことが分かります! &gt;

ですから、文脈(ぶんみゃく)上で、義のための迫害は、明確にキリスト御自身のための苦難や迫害であることが分かります。多くイエスを正しく信じていた信仰の人々がイエス様に従って生きようとする時、みんな共通に苦しみと損害を受けた時がわかります。

例え) 罪を犯しているナチーに対抗したため牢に入り、拷問を受けたボンフェパー先生は結局 1945 年 4 月ヒンムラ

一の命令によって死刑されました。その先生が死刑される前次のようなメッセージを残しました。“苦難というのはイエスキリストのまことの弟子としてのほこらしいバッチだ。苦難は真のイエスの弟子になる道であり、私たちが苦しめられたイエスキリストにもっと近づく事だ。ですからクリスチャンが苦しみを受けるために召されたという事はすこしも驚く事ではない。事実キリストのために苦難をうけるなんて主を愛している私たちにはなんとすばらしい喜びであり、神様からの恵みでしょう。”

聖書ではたしかにイエス様を信じている者たちには苦しみが近づき、当然のようにイエスを信じる事により苦しみを受けると書かれています。

“愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけない事が起こったかのように驚き怪しむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びおどる者となるためです。”（第一ペテロ 4:12-13）

もちろんみなさんはこのように思われるかも知れません。そんなイエスを信じるためうける迫害や痛みなどは信仰の自由がない共産主義の国ようなところや、イスラムの国くらいで、いまや宗教の自由があり、どこでも自由に伝道ができる日本では経験しがたいことではありませんか。と反論をする方がいるかも知れません。たしかに表面的にはそうかも知れません。しかし私たちがただ神様の御言葉の通り生きようとし、信仰を守ろうとすればするほどかならず苦しめられるとイエス様は言われました。第二テモテ 3:12 では“確かに、キリストイエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。”と書かれています。

愛するみなさん！それにもかかわらず今までイエスを信じてから自分は何の痛みも、葛藤も経験した事がなかったとするなら、教会の外側で、イエスを信じない人々の中で、自分がイエスを信じている者としてどれだけ表わそうとしたのかまず自分自身をかえりみなければならぬと思います。

ヨハネの福音書 15章 18－19節でイエス様は信じて従っていた弟子たちにこう語りました。

“もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。:19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。”

ですから、この世の中でイエスキリストを信じる信仰をしっかりと保って生きているのに、何の痛みも受けてないなら、どこかにこの世とキリストを信じる信仰と妥協しながら、その痛みを避けているかも知れません。

### <3. なぜ神様はこんな迫害や痛みを赦されているのでしょうか。>

偽りの信仰とまことの信仰が区別されるためであり、真の信仰をもたらせるためであります。

マタイの福音書 13章でイエス様の種まきのたとえ話には4つの心の地が登場しています。蒔かれた道ばた、岩地、いばらの地と良い地がありました。その中で二番目の岩地についてイエス様の御教えを覚えていますか。御言葉を意味する種が岩の地に蒔かれたと言う事はどんな状態をどのように説明されましたか。

岩地にも種が蒔かれましたが、この種は結局実を結ぶことができませんでした。なぜでしたか。その地の下に岩があったため根をおろすことができなかつたからです。これにイエス様はこう解釈して下さいました。

“御言葉を聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のこと”（20節）だといわれました。御言葉を聞く時、喜びます。ところが、イエス様は次にこう付け加えてくださっています。21節です。“しかし、自分のうちにねがないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまった。”

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

イスラエルでは石灰石や石灰岩が多くあります。地の下で特にこのような石灰石が非常に広く散らばれているため何かを植えろうとして地の深くまでその根が下ろされません。そのため実を結ばれないだけではなく、根が浅いため強い風が吹いたりするとすぐ倒れてしまいます。岩のため根が浅い木のように、主の御前には来ますが、自分に

激しい試練や苦しみの風が吹いて来ると、いつそうしたかのようにイエス様を知らんようにして逃げ出します。このような人はうわべだけの皮相的な教会の人、あるいは世俗的なクリスチャンと言います。このような人々は“神様の祝福”には相当の関心を持っています。“イエスキリストを信じれば、健康が与えられる、出世できる、成功するなどの話にはアーメンと信じようとしますが、イエス様を信じるためもし自分に不利や損になれそうな時はいくらかでもイエス様に対する信仰を放棄できる心の状態、それが岩地のような状態だと指摘して下さいました。ある意味で、平安の時、何も苦しみが無い時にはだれの信仰が本物なのかどうかは分かりません。しかし、迫害のような苦しみの風が吹いて来ると私たちはよく分かるようになります。トマスワットンという有名な先生はこう語りました。“偽りの信仰を持っている自称クリスチャンたちはイエス様についてオリブ山までは登られるかも知れない。しかし、イエス様が十字架に着けられた苦難のカルバリの丘までは決して登られない！”

旧約聖書ヨブ記 1 章を読んで見ますと、ある日サタンが神様の御前に出て来ます。そして、ヨブについてサタンは神様にこう訴えます。“神様！ヨブが神様を熱心に信じ篤実(とくじつ)な信仰の理由があります。彼が熱心に神様に礼拝し、献金をたくさん捧げているのは、神様がヨブにたくさんの祝福を与えて下さっているからだと思います。しかし、もしヨブが激しく痛みや試練を受けたら、きっと彼は今のような信仰はなくなり、神様から離れてしまうと思います。”神様はヨブの命に触れることは赦せず、それ以外の面において試して見るように赦して下さいました。急な事故によってヨブの子供たちがなくなります。ついでに大金持ちだった彼の財産もなくなります。彼もしんどい病気にかかってしまい苦しみました。

もちろん、ヨブも一人の人間にすぎないため、しばらく彼の信仰も揺らいでしまう時もありましたが、その試練や迫害の中でかえって彼の信仰は鍛錬され、以前よりさらに真実な信仰を持つようになり以前より神様を強く信じ、見上げるヨブの真の信仰の姿を見ることができます。ヨブは後このように信仰の告白をしました。

“しかし、神は、私の行く道を知っておられる。神はわたしを調べられる。私は金のように、出てくる。”(ヨブ 23:10) 旧約のダニエル書にもおなじ内容を記されています。“多くのものは、実をきよめ、白くし、こうして練られる。(ダニエル書 12 章 10 節)”詩篇でダビデも同じ告白をしています。“苦しみにあったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。”(詩篇 119 : 71)

#### < 4. 迫害の方式 >

聖書を調べてみると迫害にはいろいろな方式があることがわかります。人々に憎まれる心の迫害があります。(マタイ 10:22, 24:9; ルカ 21:17; ヨハネ 15:19-21; 第一ヨハネ 3:13). ある場合は悪口やそしりなど言葉の迫害があります(マタイ 5:11), 社会からひややかにあしらわれ、引かせられる行動の迫害もあります。(マタイ 27:22; ヨハネ 19:15). 刃物(はもの)、火、猛獣(もうじゅう)を通して受ける残酷な迫害もあります。(マタイ 24:21, 29; ルカ 21:12, 13; マルコ 13:19, 20; 第二テサロニケ 2 章; ヘブル書 11:33-38).

イエス様を信じる者たちは未信者たち(時には信仰がない愛する家族にでさえ)迫害を受けますが、(マタイ 10:21), 教会内の形だけのクリスチャンたちから迫害を受ける時もあります。形だけのクリスチャンたちの特徴は自分の信仰の経歴、経験などを表わし、自分の熱心をあらわし、御言葉のとおり生きようとする者たちをきずつけたり気をくじけたりする場合があります。私たちは未信者から受ける痛みと迫害はあったとしても、自分たちもいざ教会内で実際そのような迫害者にならないようにいつも謙遜に身をつつしんで祈らなければならないと思います。

パウロがイエスキリストを受け入れる前、うわべだけの信仰を持って熱心であったサウロの時のようにイエス様を信じている群れを苦しめたり、迫害する者のように、パリサイ人たちのようにイエス様と弟子たちを迫害していたようにならないように気をつけなければなりません。私たちの教会はむしろ教会に通うため苦しんでいる人々をなぐさめる教会となっていきたいです。イエスキリストの福音を伝えるなかで苦しんでいる人々を励まし、応援する教会となっていきたいです。信仰を守り、御言葉とおりに生きようとし、この世と妥協しないで、不義をゆるさないため損害を受け苦しんでいる方々のために喜びをもって助ける教会となって行きましょう。

## く 5. 迫害を受ける時のクリスチャンの態度 く

特に私たちは迫害を受ける時、恨みをいだき、仕返しする心をもってはいけません。(マタイ 5:44).

憤らないで(ピリピ 1:15-18), 落胆し愚痴がましくなげいてもいけません(ヨハネ 14:1)。苦い根をもったまま我慢し迫害者を恐れる必要もありません(マタイ 10:28-30)。そして迫害を受ける時、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しんではいけません(第一ペテロ 4:12)。私たちは十字架につけられたイエスキリストを信じ、その御言葉の通り生きる者ではありませんか。イエス様ご自身も父なる神様の御心に従ったためあの残酷な十字架の苦しみを受けられました。数多くの信仰の人々は私たちよりひどく迫害を受けました。代表的に使徒パウロはイエス様の福音を伝えながらどんな迫害と苦しみを受けましたか。使徒の働き 14 章 19, 22 節をさがして読んでみましょう。“ところが、アンテオケとイコニオムからユダヤ人たちが着て、群衆を抱きこみ、パウロを石打ちにし、死んだ者と思って、町の外に引きずり出した。弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりととどまるように勧め、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならぬと言った。」

そして私たちは迫害を受ける時迫害する人たちのために祈り(マタイ 5:44), 感謝をもって喜ぶべきです(マタイ 5:12, 使徒の働き 5:41)。迫害を受ける時私たちはクリスチャンとして喜ぶべきです。この世では不義と妥協しないため御言葉とおりに生きようとすると時には損害をこうむる場合があるかもしれませんが、天国ではすべてを得て生きる事ができるという希望がキリストにあるので、私たちは希望をもって喜ぶ事ができます。

初代教会の使徒たちはイエスの御名のため迫害されることを喜びました。“そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った。”(使徒 5:41)

## く 6. 神様がくださる祝福の約束 く

すると迫害されている者たちに与えられる神様からの祝福の約束はなんでしょうか。私たちがイエス様を信じるため損害をこうむり、やたらなことをされても喜べる根拠はどこにあるでしょうか。

一つ目、迫害を受ける者は天国を所有するだけではなく天国での報いが大きいからです。(ルカ 19:11-27; 第二コリント 5:9-10) 愛する信仰の家族みなさん!

義のために迫害されている者には“天の御国はその人たちのものになり” 12 節には“天では報いが多いため”だと言われました。これは現在の祝福だけではなく、未来的な祝福の意味が強く含まれています。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! イエスキリストを信じている我々はみんな御言葉の約束通りにみんな天国に入れると信じます。ここで一つ質問があります。天国の中で本当に神様に誉められ、輝けるスターのような人たちはどんな人たちだと思いますか。ヨハネの黙示録 20 章では、使徒ヨハネが神のまぼろしの中御国を拝見します。天国で御座におられるイエスキリストの近くに座っている多くの人たちが見えます。彼らはイエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像をおかまなかつた人々(黙示録 20:4)であるとかかれています。つまり、彼らはみんなこの地上での時、イエスキリストのため迫害や苦しみを受けられた人たちであることが分かります。

苦難は霊的なものに対する所有権を確認させてくれる特別な力があるようです。市場では値引きしてもらったことで満足するかもしれませんが、霊的にはその反対だと思います。つまり真理のためにもっとたくさん払えば払うほどもっといいものを得るということです。私たちがイエスキリストのために苦難を受ければ、受けるほどやがてみなさんと私が入ろうとする天国での報いは大きくなるという神様からの約束を忘れないでください。

トーマスガスリーという神学者はこう言いました。“この世は働くところであって、天国は賞を受けるところだ。現世では戦い、天国では冠をかぶらせる。時間の世界は労苦のためにあり、永遠の世界は永遠の安息と喜びのために存在するのだ。”

ヘブル人への手紙 11 章 35-40 節をさがしてみましょう。多くの神の人たちが迫害と苦難の中であっても賛美し、喜ぶことができたのは“涙があり、苦しみがあり、悲しむことが多いこの世より神様が用意して下さったすばらしい神の御国”を信じみあげていたからでした。今日八目の祝福、義のために迫害されている者がどうして幸いです

か。“天の御国がその人のものだから”です。ほかの人の御国ではなく迫害を受けているその本人たちが所有する、入る天国があるから迫害を受けている者は幸いだと言われるのです。クリスチャンプレイズチャーチのみなさん! 今日イエスを信じているため苦難を受けている方はいませんか。心に悲しみをもっている方はいませんか。やがて涙もなく、悲しみもないあの神様の御国が私達に用意されていることをかたく信じて、この世であっても勝利をあじわっていくみなさんとなりますように主の御名によって祝福します。

### 二つ目、迫害を受ける事は主の苦難に参加することができる光栄だからです。(第一ペテロ 2:21).

イエス様はすでに十字架の贖いを通して救いの御業を完全に成し遂げられました。イエスキリストは神様と断絶されていた人類を和解させる救いの門になってくださいました。これからはだれでもイエスキリストを信じ、その救いの門に入るだけで十分です。しかしこの地球には信仰のこの救いの門を見つけないでさまよっている人たちがあまりにもたくさんあります。まだ福音を知って、信じている人々はおよそ 20 億人ほどで推定されていますが、逆に一度も聞いた事がない人たちはおよそ 40 億人あまりが残っています。いまもなお 私たちの周りこの地球にはイエスキリストが成し遂げた救いの道を知らないまま、お金で、人間の努力と善行で、知識と哲学などをおして救いの道に入ろうとする人たちも数多くあります。いまも罪と快樂の奴隷として生きている人たちもたくさんあります。すでに救いの御業を成し遂げられたイエス様はきょうさきに信じている私たちに神様を知らないたましいたちにこの救いの道を大胆に知らせようと命じられました(マタイ 28:18-20)。この主の働きを果たす中で受ける苦難をイエス様は私たちに残してくださったのです。私たちが主のこの苦難に参加しないなら、全世界、すべての民族が神の栄光をみることはできません。ですからイエスキリストのために私たちが苦難を受け、迫害を受けるならむしろそれは私たちこそ神様の栄光に満ちると信じます。これこそまさに罪人であった私たちが享ける一番の光栄ではないでしょうか。

最後に、イエス様ご自身が迫害され、苦難を受ける者たちとともにおられると約束されたため私たちは喜ぶ事ができます。 イエス様を信じる者たちが迫害を受けるときイエス様はご自身が迫害を受けると感じます。なぜなら教会はキリストの体だからです。(エペソ 1:23, コロサイ 1:24)。パウロがイエス様を信じる前のサウロという名前をもっていたとき、彼はクリスチャンたちを殺し、迫害するためダマスコの近くを通る時イエス様は彼にあらわれてどのように言われましたが。使徒の働き 9 章 4 節を読んでみてください。“「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」” 教会のキリスト者たちを迫害しにいくサウロにむかってイエス様はなぜわたしを迫害するのか。と言われました。これはつまり、イエスを信じる者たちが迫害されるとき、イエス様もそこにもおられ、信者が苦難を受けるとき苦しみといたみをイエス様も同じように感じておられるということです。イエスキリストのために苦難を受ける者たちとイエスキリストがともにおられるという事実をつねに覚えているなら、私達はつねに一人ぼっちではなくイエス様とともに祈り、賛美し、感謝をすることができると思えます。

第一ペテロ 4 章 14 節です。“もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくくださるからです。”

イエス様は主が残してくださった栄光の苦難に参加しようとする私達に今日もこのように励ましてくださいます。ヨハネの福音書 16 章 33 節です。“わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安をもつためです。あなたがたは、世にあっては艱難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。” アーメン!!

イエス様のために、キリストの御言葉とおりに、この世と妥協しないで生きようとするため苦しみを受けるとき喜び、喜び踊りましょう。天での私たちのむくいが大きいからです。神様の御国が私たちに与えられているからです。イエスキリストの名を伝える事を恥ずかしがらないで、神様の御言葉を伝えつつキリストの御言葉とおりに、信仰の道を大胆に歩みながらさらに祝福されて行くみなさん一人一人となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!